

激動の時代へ 学びあうなかまとともに

with 新型コロナ感染症年を迎えて

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組
合費に含む



全教 小畑委員長

香教組ホームページ
http://kakyoso.com/

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらないもとの、2021年の幕開けとなりました。

国連子どもの権利委員会は、最終所見（2019勧告）は、「社会の競争的な性格により子ども時代と発達に害されることなく、子どもがその子ども時代を享受することを確保するための措置をとること」を日本政府に要請しました。コロナ禍だからこそ、この勧告を真摯に受け止め、すべての子どもたちの成長・発達を保障するための学校づくりをすすめていくこと、国に対して、そのための教育条件整備を求めていくことが重要になっていきます。

全教は、2020年、全国の教職員、父母・保護者、教育関係者、地域の皆さんとともに、20人学級を展望した少人数学級の実現を求め「#めざせ20人学級」のとりくみをすすめてきま

した。少人数学級の実現は、コロナ禍のもとで、あまりにも密になっていく教室環境を改善するとともに、一人ひとりの子どもたちに寄り添った教育をすすめる上で欠かせないものです。このことは、分散登校の経験等を通じて国民的な合意となりました。

国民の声に押され、2021年4月から義務標準法の改正により、5年計画で小学校の全学年で35人以下学級が実現する方向が示されました。これは、はじめの一步であって、すべての学校種での少人数学級の実現に向けて、さらに歩みをすすめていくことが強く求められています。

今、学校では長時間過密労働のもとで、教職員が心身をすり減らしています。管理と統制の教育政策のもとで、自由を奪われ、子どもも教職員も苦しんでいます。何よりも教職員定数を抜本的に増やすとともに、競争主義的な教育政策を改め、子どもにも教職員にもゆとりと自由を取り戻すことが重要になっていきます。

憲法と子どもの権利条約にもとづき、一人ひとりを大切にしたい教育を実現するために、「せんせい ふやそう」 「めざせ20人学級」の声を父母・保護者、教職員、国民の皆さんと手をつないで広げていく1年としていきたいと思います。



香教組 石川委員長

《心に残る言葉》

「私の家には神棚がある。普段から手を合わせている訳ではないが、自分自身困難に直面し悩んだ時、何か物事を成功させたい時など、よく手を合わせる。今日も、朝早く起き、手を合わせた。そうです。今日はクラス対抗綱引き・二人三脚大会の日であった。神に手を合わせ、「どうか優勝させてください。」 「もし優勝できなくても、皆が、一生懸命頑張れて、全員が満足のいく試合をさせて下さい。」

「そう祈り、通勤の車中ドキドキしながら、どうやったから勝てるのだろうかと考えながら学校へ向かった。そして、いよいよ本番（六限）がきた。私は、また、神に祈る気持ちで、3組の健闘をステージの上からじっと見ていた。初戦、調子よく勝った。二回戦も手に汗握り、「頑張れ、もう少しだ。」

心の中で叫んだ。緊張も最高点に達していた。ちょうどその時、近くにいた3組のある女子が私に向かってこんなことを言った。「〇〇先生やあんなに応援して

してくれんのやな。」私は「え……」と思った。さつきからこんな風に、一生懸命心の中で応援しているのに……。思わず私はこう返した。「心の中で応援したんや……」それを聞いた女子は続けて、「心の中で応援したって、そんな生徒に通じへんわ。」と言った。私はそれを聞いて、大変がっくりした。それ以来、その言葉は私の頭から消えない。そして、自分なりに考えて、いくら生徒のためを思っているにしても、それが伝わらなければなんにもならないのか……。話は変わるが、人間というものは、とても素晴らしい高等動物である。下等な動物よりも優れている。笑っている甲虫、泣いている芋虫、はにかんでいるキリン、ダイエツトしているカバ、おしゃべりなワニやイノシシ……。など見たことのない。神は人間だけにこのような優れた感覚や、素晴らしい器官、機能、感情を授けてくださった。とても感謝しなければならぬことだろう。そして、それなら、人間として生まれたい以上、自分の持てる能力をフルに発揮して、笑ったり、怒ったり、泣いたり、悔しがったり、喜んだり、すねたり、人のために働いたり、感動を与えたり……。いろんなことを力一杯経験したい。」

《地道に寄り添って》

昨年は、新型コロナウイルス対策のため困難が多かったが、その中で、地道で（平和で）当たり前に行ってきたことがあった。とだつたと分かった。交渉において、県教育長は「7時間授業等は様子を見ながら」と思う。コロナウイルス対策をして、これまでの行事・研修等が本当に必要だったのかと感じる。教育センターにさびびる。教育センターに「3年計画の「働き方改革プラン」は今年度最終年であるが、超過勤務が月45時間超や80時間超の先生方もまだまだたくさんいる。「1年単位の變形労働時間制」も県教委が準備の意向を示しているが、余りにも拙速である。今年も、課題は多いが「生徒・児童に寄り添う教育」が保障できるように組合活動をより強化したい。皆さんも、是非、組合に入ってともに頑張りましょう。本年もよろしくお願ひします。

